

第 10 回長時間研究会 2014 年 11 月（札幌市）

「透析間体重増加率：中 1 日 2%，中 2 日 3%」

医療法人幸善会 前田病院 前田利朗

氏名：前田利朗，前田篤宏，熊川智恵子，江頭八千代，眞崎愛子，松本睦子，都知木
康行

【目的】1989 年以來，当院患者では全員に 6 時間透析を実施しており，透析間の体重増加量は概して少ない。2005 年，2009 年，2012 年，2013 年および今回 2014 年に調査を実施したが，いずれの時期においても透析間体重増加率は中 1 日が 2%，中 2 日が 3%程度で，時期による差はほとんどなかった。この体重増加率が少ない理由について検討した。

【対象および方法】当院透析患者 140 名（男 88 名，女 52 名）を対象に，2014 年の夏季（6 月～8 月）の平均体重増加率を求め，過去のデータと比較した。

【結果】2014 年 6 月～8 月の透析間体重増加率の平均は中 1 日が 2.0%，中 2 日が 3.1%であった。また実際の増加量はそれぞれ 1.1kg，1.6kg で，患者の平均ドライウエイトは 52.6kg であった。ドライウエイトの軽い患者の方が，体重増加率は相対的に大きい印象があった。

【考察】透析間体重増加率が少ないことに関しては、いくつかの要因が考えられる。ひとつは当院が九州という温暖な地域に所在し、かつ田舎であることから、透析以外の時間帯に田畑や庭など屋外作業を楽しむことで発汗などの蒸泄量が多いことが考えられる。次に、一日尿量が100ml以上保たれている患者が全体の40%近くあることが挙げられる。6時間透析では時間除水量を比較的少なく抑えることができるので、これが体液量変動軽減、腎血流保持、尿量維持に良い影響を与えている可能性がある。少量でも自尿があることは、透析間の体重増加を抑える効果だけではなく、そのまま時間除水量の減量にもつながり、良循環を形成する元になると思われる。また、食事については、半数以上が家族と同じものを食べており、塩分制限に関して家族の協力が得られていることが伺えた。家族の協力を得るためには、患者だけではなく、できるだけ多くの身内や同居者に、腎不全や透析療法、原疾患について理解してもらうための努力が必要であると考えられる。

同じ九州内でも、当院患者の体重増加量は他施設に比べて少ないと聞いている。体重増加量は塩分摂取量に比例するものであり、当院患者の透析間体重増加率および増加量が少ない最大の要因は、患者自身のセルフ・コントロールによるものと思われた。